

**事例3** クラス全員で課題を解決するために、英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことをねらった事例

○学年 第5学年

○主な領域 「話すこと [やり取り]」

○事例のポイント

- ①主体的・対話的で深い学びの実現のために、授業の一連の流れ（めあて、活動、まとめ、振り返り）に一貫性をもたせる指導をする。
- ②児童にとって意味のある言語活動とするために、コミュニケーションの目的や場面、状況の設定や会話の必然性をもたせる工夫をする。
- ③児童が既習の言語材料の活用や語彙を増やすことができるように、言語活動における中間指導を行う。
- ④他教科・他学年との教科横断的な視点をもって、指導計画を作成する。
- ⑤「話すこと [やり取り]」の評価（特に、「思考・判断・表現」）を適切に行うために、具体的な評価基準（ルーブリック）を作成する。

1 単元名 ONE WORLD Smiles5 Lesson5 Where do you want to go? どこへ行きたい?

2 単元について 省略

3 児童の実態について 省略

4 単元の目標

修学旅行で行きたい場所をクラスで決め、校長先生に交渉するために、修学旅行で行ってみたい都道府県を伝え合うことができる。

- ・行ってみたい場所やその理由の伝え方・尋ね方を知って、言ったり聞いたりすることができる。 〈知識及び技能〉
- ・行ってみたい場所を伝え合うために、相手にわかりやすく伝えたり、相手の話をよく聞いたりする。 〈思考力, 判断力, 表現力等〉
- ・行ってみたい場所を伝え合うために、相手にわかりやすく伝えようとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりする。 〈学びに向かう力, 人間性等〉

5 単元の評価規準

（本単元における「話すこと [発表]」及び「読むこと」、「書くこと」については、目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと ①		①相手の考えをよく知るために、行ってみたい場所やその理由、そこでできることなど、具体的な情報を聞き取っている。	①相手の考えをよく知るために、行ってみたい場所やその理由、そこでできることなど、具体的な情報を聞き取るようとしている。

話すこと「やり取り」 や	<知識> ①行ってみたい場所やその理由、I want to go to ~. I can ~. Where do you want to go? その答え方について理解している。	①自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話したり、相手の話をよく聞いたりして伝え合っている。	①自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりして伝え合っている。
	<技能> ②行ってみたい場所について、I want to go to ~. I can ~. Where do you want to go? 等を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。		

## 6 単元計画（7時間扱い）

時	◆目標・○活動  編 P149 指導計画作成の留意事項(3)	評 価		
		知・技	思・判・表	態 ◎評価規準 (評価方法)
1	◆行ってみたい都道府県とその理由について、まとまった話を聞いて具体的な情報を聞き取ることができる。 ○Small Talk 話題：冬休みの計画 ○Let's Watch ○Let's Say It Together ○Let's Think			※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。 事例のポイント④ 行ったことのある場所や日本地図を活用することで、題材を身近に感じさせる。
2	◆行ってみたい都道府県とその理由の尋ね方・答え方がわかり、気持ちを伝える表現を知る。 ○Let's Watch ○Let's Say It Together ポインティングゲーム ○Let's Listen1 ○Let's Listen2			※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
3	◆行ってみたい都道府県とその理由の尋ね方・答え方がわかり、伝え合うことができる。 ○Let's Say It Together ○Small Talk 話題：先生（方）の出身地 ○Activity1 ○Activity2	や ②		◎行ってみたい場所について、I want to go to ~. I can ~. Where do you want to go? 等を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。〈行動観察〉 事例のポイント③ 既習の言語材料に気付かせ、復習する機会にする。

4	<p>◆相手の考えをよく知るために、行ってみたい場所やその理由について、具体的な情報を聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。</p> <p>○Let's Say It Together ○Activity2 都道府県クイズ ○Final Activity</p> <div data-bbox="488 383 967 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>事例のポイント② 活動の“単純な繰り返し”にならないように、ペアやグループ、児童と教師など、やり取りの方法を随時変える。</p> </div>		聞 ①	聞 ①	<p>◎相手の考えをよく知るために、行ってみたい場所やその理由、そこでできることなど、具体的な情報を聞き取っている。〈行動観察・ワークシート〉</p> <p>◎相手の考えをよく知るために、行ってみたい場所やその理由、そこでできることなど、具体的な情報を聞き取ろうとしている。〈行動観察・ワークシート〉</p>
5	<p>◆行ってみたい都道府県やその理由、そこでできることなどを伝え合うことができる。</p> <p>○Small Talk 話題：おすすめの特産物 ○Let's Say Read and Write ※1～4時まで慣れ親しんできた音声を文字に表すことで、書くことに対する抵抗をなくす。 ○Final Activity ○ジングル・コーナー</p>	や ①			<p>◎行ってみたい場所やその理由、I want to go to ～. I can ～. Where do you want to go? その答え方について理解している。〈行動観察〉</p>
6	<p>◆自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話したり、相手の話をよく聞いたりして伝え合うことができる。</p> <p>○1 Minute Chat ○Let's Say It Together ○Final Activity ○Sounds and Letters</p> <div data-bbox="309 1621 676 1895" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">  </div>	や ①	や ①		<p>◎行ってみたい場所を伝え合うために、相手にわかりやすく伝えたり、相手の話をよく聞いたりしている。〈行動観察〉</p> <p>◎行ってみたい場所を伝え合うために、相手にわかりやすく伝えようとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。〈行動観察〉</p>

7	◆校長先生に交渉するために、相手に伝わる話し方や聞き方の工夫をしながら、行ってみたい場所について、尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。			
	○Final Activity ○Review ○単元の振り返り			※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           事例のポイント①            単元目標の達成や単元前後の変容など、自分の考えや気持ちを言語化し、児童の学びを価値付ける時間とする。         </div>				

## 7 本時の展開

目標 自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話したり、相手の話をよく聞いたりして伝え合うことができる。

準備 デジタル教材・・・デ教、提示用写真・・・写真、音声CD・・・CD、

ICT端末・・・ICT、振り返りカード・・・振カ

○本時の展開 (6 / 7)

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	○挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。</li> <li>言い留まってしまう児童には、指導者が笑顔で少し待ったり、友達からアドバイスをもらったりするようにする。</li> </ul>	
2分	○歌を歌う。 “A Whole New World”	<ul style="list-style-type: none"> <li>無理に全てを歌わせるのではなく、自分の歌えるところを自信をもって歌わせる。</li> <li>単元前に児童の歌いたい曲のアンケートを取っておき、その結果を参考に選曲する。</li> </ul>	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">CD</span>
1分	○1 Minute Chat	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の表現を使ってペアで会話をさせる。</li> <li>言えない表現があれば、個別支援をしたり、友達同士で教え合ったりさせる。</li> </ul> ※Small Talk の代わりに活動とする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           事例のポイント③            挨拶や既習表現を活用して自由に会話をする。会話後にどのような内容の会話をしたか、どのような表現を使ったのか全体で共有する。         </div>	使用する表現の例 <ul style="list-style-type: none"> <li>Do you like ~?</li> <li>What sport do you like?</li> <li>How's the weather?</li> <li>What time is it?</li> <li>What do you eat for lunch? など</li> </ul>	
3分	○Let's Say It Together	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声を聞いて、後について発話させる。</li> <li>1回目は教科書の音声通りに発話し、2回目は自分の言いたい場所に替えて発話させる。</li> <li>児童の視線をテレビに集め、全員で一緒に発話するために、デジタル教科書を活用する。</li> </ul>	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">デ教</span>
			

28分	<p>○Final Activity</p> <p>①指導者（担任と ALT）の会話を聞く。（Small Talk）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話のモデルを提示する。</li> <li>・指導者は、行きたい場所について、相手に写真を見せながら紹介する。</li> </ul>	写真
<p>事例のポイント③</p> <p>聞き取れた表現や会話の内容を考えながら聞かせる。</p>		<p>T1: What's this? (写真を見せながら)</p> <p>T2: It's Sky Tree.</p> <p>T1: That' right. Where is it?</p> <p>T2: It's in Tokyo.</p>	
<p>事例のポイント②</p> <p>指導者同士は、互いの行きたい場所を知らずに準備しておくことで、本当の考えを伝え合うようにする。</p>		<p>T1: Yes. It's in Tokyo. I want to go to Tokyo.</p> <p>T2: Why?</p> <p>T1: Because I want to see Sky Tree.</p> <p>I want to eat もんじゃ焼き.</p> <p>Where do you want to go? (交代)</p>	
<p>編 P149 指導計画作成の留意事項(2)</p>		<p>T2: OK. What's this? (ALT が実際に行きたい場所の写真を見せながら)</p> <p>※同様の会話を続ける。</p>	
<p>②本時のめあての確認をする。</p>			
<p><b>修学旅行で行ってみたい場所ランキングを作ろう！</b></p>			
<p>事例のポイント②</p> <p>目的をもって相手に配慮しながら言語活動に取り組めるような課題設定をする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話を楽しむことを前提とし、聞き取りの結果をもとに、ランキングを作ることを伝える。次時には、実際に校長先生に交渉することも伝える。</li> </ul>	
<p>③ペアになり、修学旅行で行きたい都道府県について相手と伝え合う。隣・前後・斜めのペアで行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県クイズやなぞり書き、写真やスリーヒントクイズなど、既習事項を活用して自分の行ってみたい都道府県について一番伝えやすい方法で伝えさせる。</li> <li>・中間指導をしやすくするために、ICT端末で児童同士のやり取りを録画する。</li> </ul>	
<p><b>【予想される児童の発話例】(スリーヒントクイズの場合)</b></p>			
<p>S1: I have a 都道府県クイズ. Please answer.</p> <p>No.1 I see Mt.Fuji.</p> <p>No.2 I drink green tea.</p> <p>No.3 I eat <i>sashimi</i>.</p>		<p>S2: Shizuoka.</p> <p>S1: That's right.</p> <p>I want to go to Shizuoka.</p> <p>S2: Why?</p>	
<p>④活動後に、伝え合う内容や表現について考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動後に中間指導を行う。</li> <li>・本時のめあてに対して、足りない部分や工夫してできている部分などについて、数名の児童の発話を取り上げて全体に考えさせる。</li> <li>・繰り返しや一言感想など、会話を工夫している児童についても取り上げる。</li> <li>・言いたくても英語で言えなかったことについて、どのように言えばよいかをグループで考えさせ、発表させる。</li> </ul>	
<p>事例のポイント③</p> <p>活動後に、発話例を全体に提示することで、目的を達成するために必要な表現や方法はどんなことか考えさせる機会をもつ。この後、児童が活用できる表現や内容を広げることが重要。</p>			

[言いたいけど、言えない言葉の取り上げ方の例]  
 S1: I want to eat かき氷. かき氷って何て言うのですか。  
 T1: Ok. How do you say “かき氷” in English? Let's think!

[一言感想の取り上げ方の例]  
 S1: I want to go to Tokyo.  
 S2: Oh! Me,too. / It's nice!

[繰り返しの取り上げ方の例]  
 S1: I want to go to Tokyo.  
 S2: Oh! You want to go to Tokyo.

⑤グループを変えて、ペアで会話をを行う。



◎自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話したり、相手の話をよく聞いたりして伝え合っている。【思・判・表】・**や**・①〈行動観察〉  
 ◎自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について、相手にわかりやすく話そうとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりして伝え合おうとしている。【態】・**や**・①〈行動観察〉

事例のポイント⑤  
 具体的な評価基準を作成する。

【思考・判断・表現】の評価基準 \*詳細は別枠参照

- A: 自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、自分の考えや気持ち、理由を含めて質問したり、質問に答えたりしている。
- B: 自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、理由を含めて質問したり、質問に答えたりしている。
- C: 自分の考えを知ってもらったり相手の考えを知ったりするために、友達や先生の支援を受ければ、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、質問したり、質問に答えたりしている。

⑥それぞれの児童が聞き取ってきた「行きたい都道府県」を班長が集約し、担任に報告する。

・修学旅行で行ってみたい場所ランキングは、本時のまとめの際に発表する。

5分

○Sounds and Letters  
 ジングルを一通り聞く。  
 ①英語とカタカナ語の発音の違いに気を付けて聞く。  
 ②文字を見ながら s と z の文字を含む語を聞き、/s/ と /z/ の音の違いを認識し、文字を書き写す。

・ジングルを一通り聞かせる。  
 ・英語とカタカナ語の発音の違いに気を付けて聞かせる。( /s/ と /z/ の違い )  
 ・s と z で始まる語を聞かせ、文字を書き写させる。  
 ・ALT が言語 (音声) の指導を主に担う。多様な例を出し、判別する力を養う。

デ教

	<p>③/s/と/z/のどちらの音で始まる単語か聞き比べ、○をつける。</p> <p>④イラストを見て話の内容を想像した上で音声を聞き、発音練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・s と z のどちらで始まる単語か聞き比べ、○で囲ませる。</li> <li>・イラストを見て話の内容を想像した上で音声を聞き、発音練習をさせる。</li> </ul>	
1分	<p>○本時のまとめをする。</p> <p>[板書例]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいに対してのまとめをする。</li> <li>・ねらいに対する達成度や理解度を確認するために、児童に挙手をさせる。</li> </ul>	

Today's Goal: 修学旅行で行ってみたい場所ランキングを作ろう!

Where do you want to go?

I want to go to ~.

I want to eat ~.

I want to see ~.

まとめ

行きたい場所1位は・・・

(聞き取りの集計をもとに)

振り返り



事例のポイント②

前時の振り返りをしながら、既習表現を確認する。

4分	<p>○本時の活動の振り返りをする。振り返りカードに記入する。</p> <p>○ペアで振り返りの内容を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のねらいに照らして、児童の向上したことや学び方のよさを確認、実感できるように称賛する。</li> <li>・自分の振り返りを児童同士で伝え合うことで、学びを価値付けさせる。</li> <li>・振り返りカードは児童の学習改善と教師の指導改善に活用する。</li> </ul>	振力
----	--	---	----

事例のポイント①

めあてに向けて言語活動を行い、全体でまとめをした後、次時につながる振り返り（気付きや学びの言語化）ができるようアドバイスをす

英語で伝え合うことを楽しむことができました。

☆☆☆

行ってみたい場所について、相手に伝わるように工夫しながら、質問をしたり、質問に答えたりすることができました。

☆☆☆

友だちとなかよく活動できました。

☆☆☆

今日の授業で、心に残っていることは、何ですか。理由も教えてください。

事例のポイント②

めあてに対する振り返りを中心に行うよう、言葉がけする。

○挨拶をする。

・全体に挨拶する。

8 評価基準（ルーブリック）の例

本単元における「話すこと [やり取り]」の領域の評価基準の一例である。

評価基準の作成においては、各校の児童の実態や年間指導計画、それぞれの単元における指導と評価計画（単元でどのような力を児童に身に付けさせ、見取るのかなど）によるものである。

（A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	行ってみたい場所について I want to go to ～. I can ～. Where do you want to go? 等や既習表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、自分の考えや気持ち、理由を含めて質問したり、質問に答えたりしている。	自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、相手にはっきりと伝えたり、相手の話を理解し、応じたりしながら伝え合おうとしている。
B	行ってみたい場所について I want to go to ～. I can ～. Where do you want to go? 等を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、理由を含めて質問したり、質問に答えたりしている。	自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、相手にわかりやすく伝えようとしたり、相手の話をよく聞こうとしたりしている。
C	行ってみたい場所についてお手本と同じ表現を使ったり、友達や先生の支援を受ければ伝え合ったりすることができる。つかえなくても、ゆっくり1文ずつなら自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる。	自分の考えを知ってもらったり相手の考えを知ったりするために、友達や先生の支援を受ければ、行ってみたい場所について既習の表現を用いて、質問したり、質問に答えたりしている。	自分の考えを知ってもらったり相手の考えを知ったりするために、友達や先生に声をかけてもらえれば、相手にはっきりと伝えたり、相手の話にうなずいたりしながら伝え合おうとしている。